

ジーエルサイエンス 株式会社

中期経営計画

2022年3月期～2024年3月期【55期～57期】

証券コード：7705

連結 中期経営計画

(2022年3月期～2024年3月期)

当社グループ 創立の根本精神及経営理念

1. 無（経済的）の人達の集合体による組織の確立
2. 個々の社員の努力の集積による総合力の発揮
3. 非同族会社の成立
4. 役員を選出は株主（社員）の総意により決定する
5. 会社を代表する取締役社長は役員の合意により選出する
6. 経営担当者は私欲に負けない
7. 利益（広義の）は会社、株主、社員、社会に公正に分配する
8. 原則として自己資本は社内で調達し、外部（社員以外）に求めない^{注)}
9. 系列化に属さず自主的に企業を運営する
10. 組織の安定と成長

ジーエルサイエンスグループの社員は『創立の根本精神及経営理念』を基とし、真に社会性のある企業への成長をめざします。

具体的には、「社会に対し社会性を十分発揮してその存在価値を高め、社員個々の幸福を勝ち取り、企業の維持、発展をならしめ、そこから得られた技術や利益を株主、社員、社会に公正に分配する」ことを基本理念とし、創立以来の永久スローガン

【道は一つ、共に進もう】
を合言葉に行動します。

注) 本稿は当社設立当初の記載であり、その後株式の店頭登録を機に再検討し、現在は当社を信頼し投資いただける人や企業からの出資については喜んで受け入れ、有効に活用させていただくという考えでござります。

セグメント別 基本方針

分析機器事業

- クロマトグラフィー事業の持続的拡大
 1. アジア市場の強化
 2. 主力製品の強化及び収益力の向上
- 経営基盤の強化
 1. 持続的成長の為の戦略的投資
 2. ESG推進による企業価値向上
 3. 企業総合力の強化
 4. 人材基盤の強化

半導体事業

- 生産能力増強
- 営業力強化
- 業務効率化
- 経営基盤強化
- 人材育成

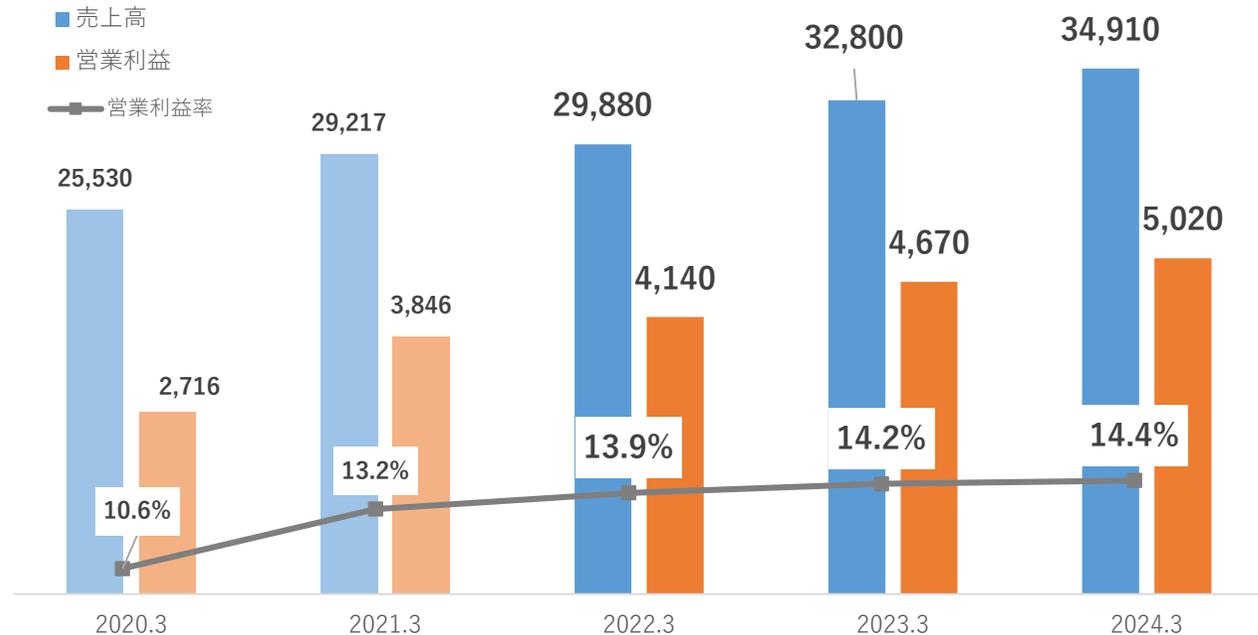
自動認識事業

- グループ会社との連携強化
- 事業構造改革の推進による課題解決
- 人材育成の強化

※半導体事業の中期経営計画詳細はテクノクオーツ（株）のWebサイトをご参照ください

連結・セグメント別 経営目標

(単位：百万円)



		2020年3月期(実績)	2021年3月期(実績)	2022年3月期(計画)	2023年3月期(計画)	2024年3月期(計画)
分析機器事業	売上高	15,161 ^{※1}	15,246 ^{※1}	15,450	16,260	17,160
	営業利益	1,291	1,455	1,640	1,750	1,840
半導体事業	売上高	9,018	12,732	13,040	14,940	15,940
	営業利益	1,419	2,446	2,460	2,860	3,090
自動認識事業	売上高	1,350	1,238	1,390	1,600	1,810
	営業利益	0	△54	30	60	90
合計	売上高	25,530	29,217	29,880	32,800	34,910
	営業利益	2,716	3,846	4,140	4,670	5,020

※1 2021年3月期までの実績は、2022年3月期から適用される「収益認識に関する会計基準」適用前の売上高
 ※ セグメント間取引消去は含めておりません

分析機器事業（個別） 中期経営計画 （2022年3月期～2024年3月期）

当社のあゆみ

設立 1968年2月

ガスクロマトグラフ用のカラム充填剤及び消耗部品の製造・販売を目的として、資本金1,500千円でガスクロ工業株式会社を東京都新宿区柏木二丁目281番地に設立

福島工場 新築 1986年

福島県福島市内の福島工業団地に福島工場(第1期工事)を新築、武蔵工場の一部を移転

東京2部上場 2005年

東京証券取引所市場 第二部に上場。
資本金を1,207,795千円に増資

中国に販売拠点を設立

中国上海市に子会社技尔(上海)商貿有限公司を設立

本社を西新宿に移転

西新宿六丁目再開発事業による新宿スクエアタワー竣工に伴い30Fを取得・移転

1970

1975

1980

1985

1990

1995

2000

2005

2010

2015

2020

武蔵工場 新築 1975年

埼玉県入間市に武蔵工場を新築、所沢工場より移転

店頭上場

日本証券業協会に店頭上場。資本金を1,040,875千円に増資

社名変更 1990年

ガスクロ工業株式会社の商号をジールサイエンス株式会社に変更

米国に販売拠点を設立

米国カリフォルニア州に子会社GL Sciences, Inc.を設立

(株)フロムを子会社化

HPLC用部品などのOEMを主力事業とするフロムを完全子会社化

欧州に販売拠点を設立

子会社ATAS GL International B.V.に当社欧州拠点の機能を加え、商号をGL Sciences B.V.に変更

前中期経営計画の振り返り

前中期経営計画 基本方針

- I. 成長と収益力及び品質の向上
- II. 海外戦略の推進
- III. 人材基盤の強化
- IV. 情報管理の充実・強化
- V. グループ経営の強化

主な取り組みと実績

- 新工場新設による生産量の増強
- 倉庫棟の建設による物流の強化
- 技尔（上海）商貿有限公司の設立
ビジネスパートナーとの連携強化
- ジョブローテーションの強化
研修制度の拡充
- 情報システムの一部を全社統合化
各種クラウド化の実施
- グループ全体における経費精算システム
の統一

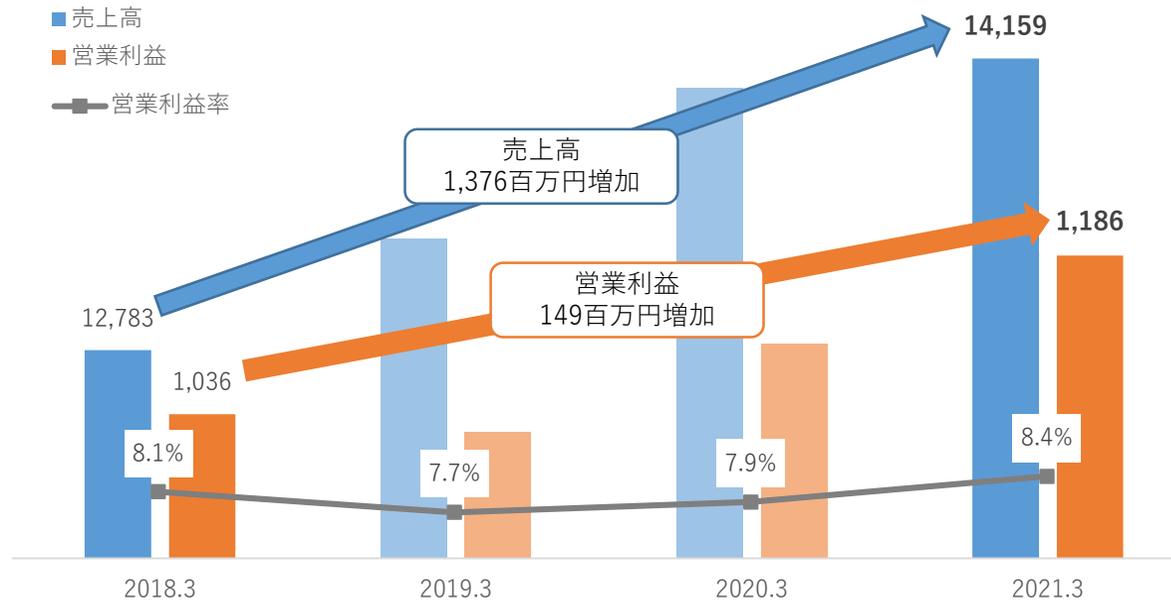
課題

- 収益力の更なる向上
- 人材基盤の更なる強化
- ESG経営、SDGsに向けた
取り組み
- DXの推進

前中期経営計画の振り返り

◆ 売上高・営業利益はともに10%以上の増加を達成 計画は未達成

(単位：百万円)



	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	中計目標	2021年3月期	2018.3-2021.3比較	
						増減比 (%)	増減額
売上高	12,783	13,310	14,024	14,500	14,159	10.8%	1,376
営業利益	1,036	1,019	1,102	1,450	1,186	14.4%	149
営業利益率	8.1%	7.7%	7.9%	10.0%	8.4%		0.3pt

当社を取り巻く環境

国内

- 分析機器市場の成熟
- コロナ禍による社会構造の変化
- 高齢化、人口減少
- 脱炭素社会に向けた科学技術開発促進

海外

- アジアの経済成長
- 米中の貿易摩擦
- サーキュラーエコノミー推進の流れ
- 中国競合メーカーの増加
- 競合メーカーによる大型M&A
- PFAS等環境汚染物質分析市場の拡大

中期経営計画のスローガン



挑戦

-Challenge for Growth-

持続可能な社会の実現には、持続的な発展が重要です
長期的な観点で、社員一丸となって様々な課題に挑戦してまいります

基本方針

I. クロマトグラフィー事業の持続的拡大

1. アジア市場の強化
2. 主力製品の強化及び収益力の向上

II. 経営基盤の強化

1. 持続的成長の為の戦略的投資
2. ESG推進による企業価値向上
3. 企業総合力の強化
4. 人材基盤の強化

1. クロマトグラフィー事業の持続的拡大

1. アジア市場の強化



海外販売の強化方針を継続し、海外現地企業とのパートナーシップ構築を検討
各国のニーズに合わせた製品の展開を積極的に図る

2. 主力製品の強化及び収益力の向上



主力製品の増産体制強化方針を継続
クロマトグラフィー用カラムの製造設備及び自動化への投資
製造技術開発の推進により、品質の安定化を図るとともに効率化とコスト削減を実現
物流拠点の新たな設置を検討 納期短縮や効率化による収益力向上や災害等のリスク回避を狙う

I. クロマトグラフィー事業の持続的拡大

1. アジア市場の強化

拠点の増設



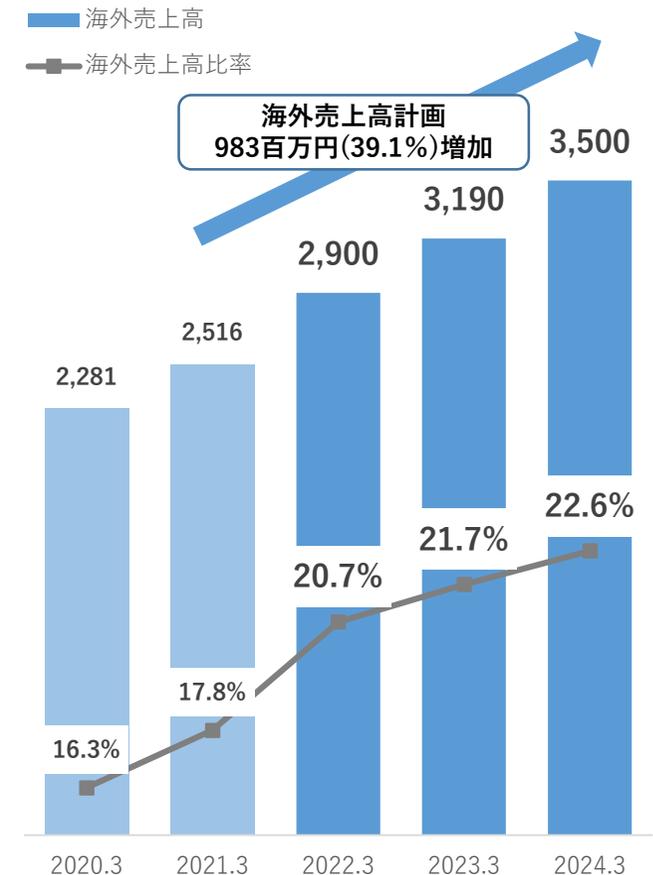
- 開発拠点の設立
- 販売拠点の設立

海外販売製品の拡充



- 環境分析ビジネス
- 新製品の発売（固相カラム等）
- 海外販売製品選定・投入

(単位：百万円)



I. クロマトグラフィー事業の持続的拡大

1. アジア市場の強化

新しい営業方法の開拓



- Webinarコンテンツの充実
- SNS (LinkedIn) の活用
- オンラインサポートの強化

代理店との関係強化



- グローバルMeetingによる代理店育成
- LCカラム専用Webサイトの構築
- 営業支援情報コンテンツの拡充

エリアマーケティングの強化



- 現地調査の強化
- 新規販売ルートの開拓

1. クロマトグラフィー事業の持続的拡大

2. 主力製品の強化及び収益力の向上

LCカラムの増産



- 自動装置の導入
- 生産拠点の増設 (BCP対応含む)
- 有機ポリマー製品の投入

製造技術開発の革新



- 製造技術開発部署の設置
- 新規製造法の導入
- 製造プロセスの改善

システム製品の販売強化



- 特注製品の標準化
- グループ内の協業

物流体制の強化



- 新たな拠点の設置
- 在庫体制の見直し・最適化
- 納期短縮・効率化
- 災害等のリスク回避

II. 経営基盤の強化

1. 持続的成長の為の戦略的投資



M&A、業務提携等を視野に入れ事業拡大を目指す
新たな領域に展開するため、他分野への進出検討や、その相乗効果を図る
外部との共同研究や新規事業の創設を検討

2. ESG推進による企業価値向上



より良い社会の形成と企業の持続可能な発展のため、ESG経営を推進
SDGsの社内啓蒙を通して、持続可能な開発目標への取り組みまたは深化の推進を目指す

3. 企業総合力の強化



DXの取り組みを推進し、経営のスピードアップを図る
社内業務のデジタル化と業務全般のコスト削減を推進し、生産性の向上を目指す
リスク管理の観点から、人的に関わる危機管理マニュアルの整備を推進

4. 人材基盤の強化



グローバル人材の採用や育成、積極的な女性社員の採用に取り組む
次世代幹部社員を含む管理職のマネジメント力強化を行う

II. 経営基盤の強化

1. 持続的成長の為の戦略的投資

M&A、業務提携等による事業拡大



- M&A 検討
- 業務提携先の探索

外部との関係強化



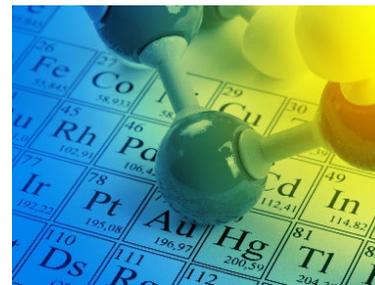
- 関係先との共同研究
- 関係先との更なる協業
- スタートアップ企業への投資
- OEM先の探索
- 関係代理店のECサイト参入
- 独自ECサイト構築

新たなビジネスの創出



- シリカ表面処理技術をクロマト以外の分野へ応用
- 新規ビジネスの創出

原子力業界



- 廃炉に伴う廃棄物分析の協力
- 分離剤の提供
- 自動分析システムの検討

II. 経営基盤の強化

2. ESG推進による企業価値向上

より良い社会の形成と企業の持続可能な発展のため、ESGの3つの要素に対する社会の期待や要請に「誠実」かつ「真面目」に取り組み、ステークホルダーとの対話を通じて深化させていきます



環境貢献型製品の開発・製造、環境貢献活動、自然保全活動への支援など循環型社会の構築並びに地球環境の保全に貢献してまいります



ISO9001認証取得、透明かつ公正な調達活動、次世代支援や地域貢献など社会と共に発展していく企業を目指してまいります



コンプライアンスの遵守やリスクマネジメントなどコーポレート・ガバナンス体制の強化に取り組んでまいります

II. 経営基盤の強化

2. ESG推進による企業価値向上 —SDGsの取り組み—

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

長年の経験と確かな技術を元に
新たな技術や画期的な製品を開発し
企業、研究機関への販売や
サポート活動を通じて
様々な環境問題や社会課題の解決に
貢献していきます



3 すべての人に健康と福祉を
・環境分析製品の新興国への供給拡大

ESGでは、 . . **E S**



5 ジェンダー平等を実現しよう
・積極的な女性採用
・女性が働きやすい職場の構築
・男性の育児休暇制度の活用推進

ESGでは、 . . **S G**



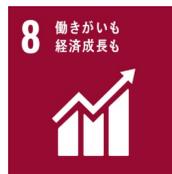
6 安全な水とトイレを世界中に
・水質分析製品の新規開発
・水質分析製品の海外への供給拡大

ESGでは、 . . **E S**



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
・クリーンエネルギー研究用分析機器の製造や販売

ESGでは、 . . **E S**



8 働きがいも経済成長も
・紛争鉱物に関するサプライチェーンの調査を通じ、反社会勢力武装勢力への資金提供を回避する材料調達

ESGでは、 . . **S G**



9 産業と技術革新の基盤をつくろう
・クリーンエネルギー研究のための装置の製造と供給
・国や先端技術研究機関への製品供給など

ESGでは、 . . **E S**



11 住み続けられるまちづくりを
・大気汚染物質の分析装置および消耗品の開発、分析手法の開発

ESGでは、 . . **E**



12 つくる責任 つかう責任
・製造時の化学物質管理
・RoHS指令に適合した資材調達
の推進
・製造活動に係る廃棄物削減および分別促進など

ESGでは、 . . **E S G**



13 気候変動に具体的な対策を
・社内における省エネルギー活動の推進

ESGでは、 . . **E**

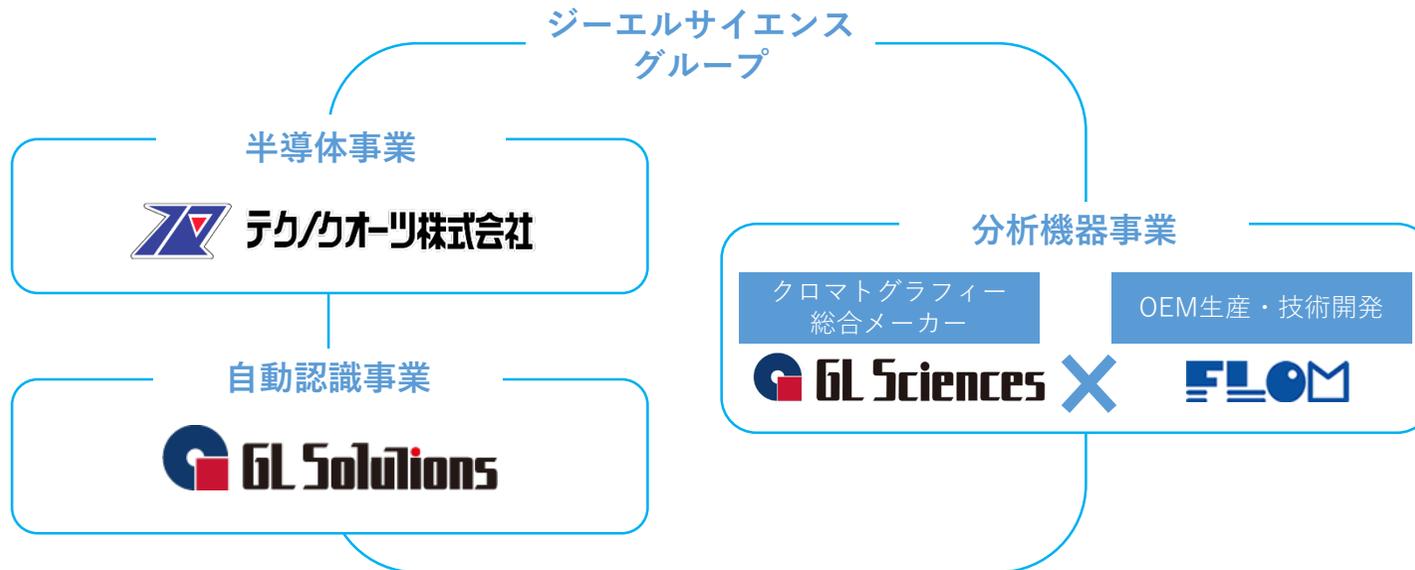


17 パートナーシップで目標を達成しよう
・WWFへの当社株式寄付による支援（配当金の活動資金組み入れ）
・「企業版ふるさと納税」を活用した福島市待機児童対策への協力など

ESGでは、 . . **E S G**

II. 経営基盤の強化

3. 企業総合力の強化 —グループ会社との連携—



グループ全体の社内システム電子化による効率化
企画力、販売力の連携 及び 人材の交流

総合メーカーとしての販売力を持つ
ジエールサイエンスと技術力のフロム相乗効果

II. 経営基盤の強化

3. 企業総合力の強化 —DXの推進等による業務効率化・生産性向上の推進とBCP対応—

デジタルトランスフォーメーション(DX)の取り組みを推進し、経営のスピードアップを図ります。業務のオンライン化や自動化、テレワークなど、社内業務のデジタル化と業務全般のコスト削減を進め、生産性を向上させます。また、将来に亘って通用するシステム基盤を整備するために、基幹システムの見直しを視野に入れた準備を進め、長期的な競争力強化を目指します。さらに、リスク管理の観点から、人的に関わる危機管理マニュアルの整備を進めていきます。

5つの重点施策

社内システムの見直し

業務効率化（電子化）

グループウェアの見直し

危機管理マニュアルの整備

社内業務全般のコスト削減

II. 経営基盤の強化

4. 人材基盤の強化

当社の発展を支えてきたのは社員の高い専門性です。人材が経営における最も重要な財産であり、その育成が中長期的視点での経営課題であるという考えの元、グローバル人材の採用や育成に取り組んでいきます。また、積極的な女性社員の採用を目指します。次世代幹部社員を含む管理職のマネジメント力強化を行っていきます。

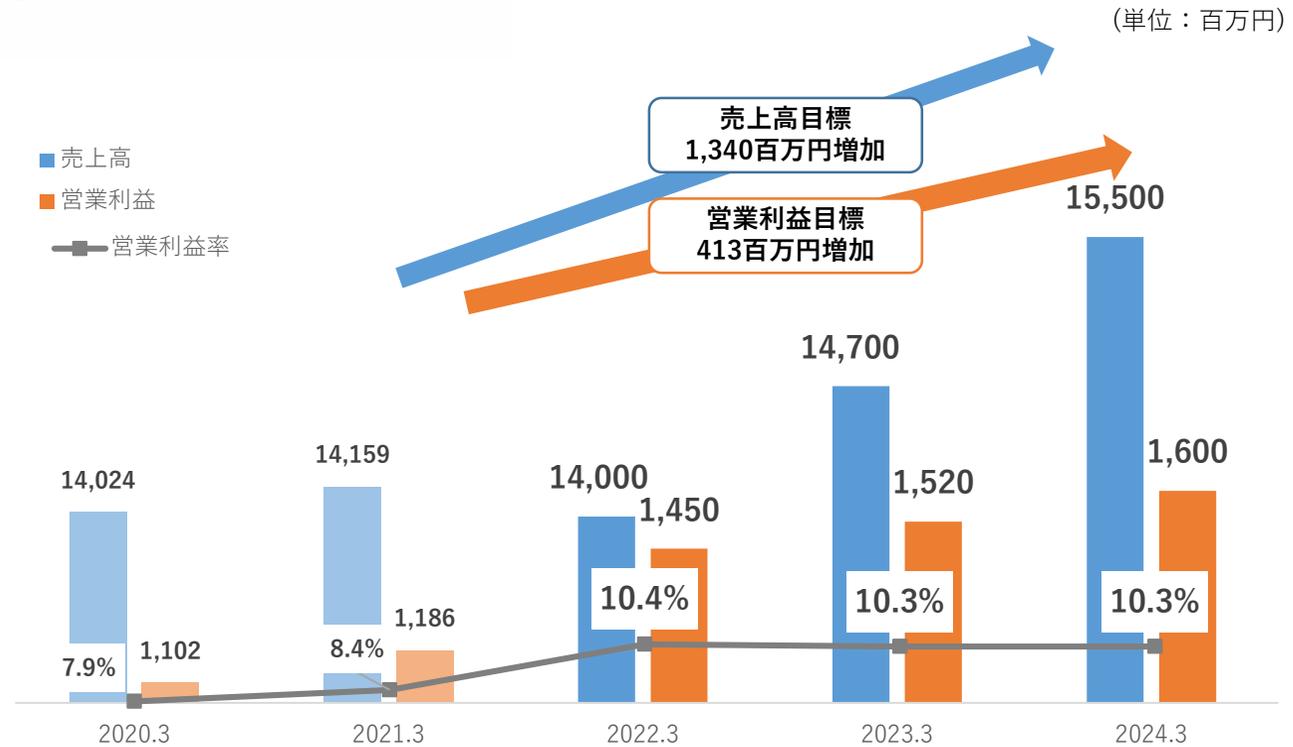
グローバル人材の育成

管理職のマネジメント力強化
次世代幹部社員の育成強化

人事制度の見直し



個別 経営目標



	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (計画)	2023年3月期 (計画)	2024年3月期 (計画)	2021.3-2024.3比較	
						増減比 (%)	増減額
売上高	14,024 [※]	14,159 [※]	14,000	14,700	15,500	9.5%	1,340
営業利益	1,102	1,186	1,450	1,520	1,600	34.9%	413
営業利益率	7.9%	8.4%	10.4%	10.3%	10.3%		1.9pt

※ 2021年3月期までの実績は、2022年3月期から適用される「収益認識に関する会計基準」適用前の売上高



あなたと一緒に地球の未来を考える。

We think about the future of the earth together.

ジーエルサイエンス。



ESG
SDGs

免責事項

本資料に記載されている資料には、将来に関する業績の見通しを含みますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々なリスクや不確定要素に左右されるため、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料の著作権はジーエルサイエンス株式会社に帰属します。事前の承諾なしに著作物を使用することはできません。

ジーエルサイエンス株式会社

〒163-1130 東京都新宿区西新宿6-22-1

TEL : 03-5323-6633

FAX : 03-5323-6636

URL : <https://www.gls.co.jp>